

# 働くお母さん 悩みを聞かせてください。

働くお母さんたちの悩みは、子供の学齢、勤務先のカルチャー、実家や夫のサポート度合い…など、その環境によって人それぞれだが、一番大切にしたいことは共通している。3人のワーキングマザーに話をうかがった。

## 育児環境を重視して保育園から幼稚園に転園 夕食はもう少し手の込んだ料理を作りたい



赤上裕美さん（34歳・広告）  
長男4歳

午前10時～午後4時までの時短勤務中の赤上さん。昨年春、長男を保育園から幼稚園に転園させた。幼稚園を選んだ理由は、長男がお昼寝の時間を嫌がっていたこと、広い芝生の園庭がのびのび遊べること、夕方まで預かり保育があり、その時間中に園内で課外教室に参加できる、ということなどから。駅近で通勤するママには便利だった保育園に比べ、幼稚園は自宅から駅とは反対方向。お迎え時間がかかるようになり、費用も保育園時代の倍はかかっているそう。

「会社の理解があって、恵まれた制度での時短勤務ができるからこそですが、子供にとっての環境の良さから選びました」

### 子供との時間を増やしてきちんと接したい

保育園時代に比べて変わったことは、「保育園では働いているお母さんが当たり前でしたが、幼稚園では10人に1人いるかどうか。周りの子供たちが昼で帰っていく中、夕方まで預けているということもあって、意識的に子供との時間を増やしてきちんと接したい、と思うようになりました」。保育園時代も、帰り道、気持ちは急ぎながらも、子供の寄り道に付き合っ一緒に遊んだり、子供との時間を大切にできた赤上さん。今はそれに加えて、無理に寝かしつけなくて、少し遅くなくても、絵本を読んだり



お惣菜の日、盛り付けをスペシャルに

一緒に遊ぶ時間を作っているそう。

赤上さんが、もう少し手をかけたいと思う家事は、夕食作り。「いつも30分くらいで作っています。週1回は“お惣菜を買ってもいい日”にしている（＝写真左下）、それは減らしたくないけど、もう少し時間をかけて手のこんだ料理を作りたいと思います」

“お惣菜を買ってもいい日”を作ることで気持ちにゆとりができる…と上手にメリハリを付けているが、気持ちのどこかで、もっときちんとしたい、と思っている様子もうかがえる。

### 実家の母が来てくれると気持ちが楽に

実家は福島。子供が2歳くらいまでは、具合が悪くなったときに実家の母に上京してもらっていたが、最近では子供が元気でも、2ヵ月に1回、3～4日間程度滞在してもらい、幼稚園バスのお迎えを頼んでいる。

「幼稚園に入れるときに親も協力すると言ってくれたので甘えているのですが、母に来てもらうと気持ち的に本当にラクです。3世代で暮らすって、いいですね」。

最後に、育休明けの職場復帰について聞いてみた。「1年半程度のブランクがあったのですが、会社の動きも人もいろいろと変わっていて、最初は周りが何を話しているか分からないくらい、頭が鈍っていました。あまりにも目まぐるしくて…頭痛の症状が出たほど。慣れるのに1ヵ月くらいはかかったでしょう。現場感覚を取り戻すまでの時間や急な休みへの対応など、職場復帰には周囲の理解と支援がかかせない。

## 保育園は働くママに手厚かった、と実感 地域密着のおばあちゃん代わりサービスが欲しい



信田広美さん（38歳・メーカー）  
長男小学校1年、次男3歳

メーカーのPR担当で管理職を務める信田さん。昨年春、長男が小学校に入学して、いわゆる“小1の壁”を強く感じたという。「小学校にあがってあらためて、いかに保育園が働くお母さんに手厚かったかが分かりました」。保護者会や学校行事、提出物の締め切りなどが、働く母親をまったく考えていないスケジュールになっていることを痛感したそう。

### 週末の習い事で家族の時間が減ってしまう

放課後通わせているのは、民間の学童保育。英語やダンスなどのカリキュラムがあり、近くであれば習い事に連れて行ってくれる。いくつかの民間学童保育施設の候補の中で、小規模経営ながら、先生が子供一人ひとりに親身に対応していることから、多少遠いが現在の施設をセレクト。同じ保育園の先輩ママ友からの情報も役に立った。数カ所見学に行って気になったのは、大手施設スタッフのマニュアル通りの対応だったそう。現在の学童保育に満足はしているが、アクセスの問題などで平日に通えない習

い事が週末になり、家族で過ごす時間が減ってしまうのが悩み。「やり残している感」のある家事は夕食作り。週末に1週間分の献立をたて、ある程度まとめて作って冷凍。「時間短縮をして子供と向き合う時間を作りたいのでやっていますが、メニューがマンネリになるし台所に立ってもチンしかしてないって気がして。その日の作りたてを出してあげたいな、と思います」。冷凍とはいえ手作り品を用意しているのに、もっときちんとしたいと考えてしまうのは母親ならではの。

あったらいいと思うサービスは、平日、習い事に連れて行ってくれたり、お迎えや食事の支度など夕方以降の家事代行。とはいえ、家事代行サービス企業に頼む気にはならない。子育てが終わったシニア世代でおばあちゃん代わりのような、地域に密着した一定個人と契約するサービスがあったら利用したいそう。

「祖父母が近くにいないので、子供が親以外の大人と触れ合う機会は大切だと思います。探せばあるのかもしれませんが、時間もなし探し方もよくわからないので…」

## お掃除ロボットは週3回セット 次に欲しいのは、サッと使えるコードレス掃除機



京田美緒さん（38歳・建設）  
長女6歳、長男2歳

今年の春、長女が小学校に入学する。放課後は品川区が運営する「すまいるスクール」に行かせる予定だ。午後6時まで預かってくれる区の事業で、費用が安いのが助かる。残る心配は、「嫌がらずに行ってくれるかどうかですね」と京田さん。

長女を出産、育休明け後は思うように仕事ができず、後輩がバリバリと働く姿を見て、悔しい思いもあった。でも、2人目を出産してからは、サポート的な仕事でゆるめに働くように気持ちを切り替え、仕事と育児のバランスがとれるようになったという。

### 本当はもっと本を読んであげたい

時短勤務制度を利用しているが、それでも、とにかく夕方からの時間が足りないことが悩み。お迎え、夕食、お風呂と慌しく終えて、お昼寝をしていない長女が寝るのが午後9時ごろ。お昼寝をしている長男が寝るのはその後で、子供たちを寝かしつけてから、食器片付け、洗濯をする毎日だ。時間があれば「本当はもっと子供たちに本を読んであげたい」と言う。こだわっているのは

夕食作り。バランスよく手作りを増やしたいと、がんばっている。例えばキンピラ。カットしてあるゴボウ・ニンジンを使うが、出来合いの惣菜は買わない。宅配食材を利用したこともあったが、「便利でよかったのですが、価格が高いのでやめました」。

もっときちんとやりたい家事は、掃除。1年ほど前、引越しを機会に念願のお掃除ロボットを購入。月・水・金とセットしているおかげで、「ワタボコリがコロコロ舞うことはなくなりました（笑）」。それでも、週末、掃除を丁寧にやろうとすると1日がかりになり、家族との時間が減ってしまうそう。

「下の子がまだ小さいので、水拭きもきちんとしたいけど、なかなかできませんね」

働くお母さんにとっての必需品は、「お掃除ロボット、食洗機、電動アシスト自転車」と言う京田さんが、次に欲しい便利グッズは、サッと掃除ができて部屋に置いてあってもオシャレなコードレス掃除機。やはり、掃除がなんとかしたい家事の筆頭のような。